

営農指導員のワンポイントアドバイス

営農指導員 若山 謙

果菜類の初期管理

連休にかけて野菜の苗を定植した人も多いと思いますが、植えただけでは品質の良い果実は実りません。

今回は、果菜類の株づくりや果実の付け方など、初期管理について説明します。

トマト(大玉)

わき芽(葉や茎のつけ根から出てくる芽)を順次かき取って1本仕立てにします。晴天日を選んで、小さいうちに行うことで傷口を小さくし、すぐ乾くようにします。特に花房のすぐ下のわき芽は成長が早いので、取り遅れのないようにします。

最初についた花房は、確実に着果(花が咲いて実がつくこと)させることが、その後の生育のパラメータを保つ上で重要です。着果数は1段目に3個程度、2段目以降に4〜5個程度を目安とし、これ以上着果した場合には早めに摘果(果実を摘み取る)をします。

ナス

最初に花が咲いた枝と、その花の下から出たわき芽2本を伸ばし

た、3本仕立てにします。それ以下のわき芽は早めにかき取り、株元の風通しを良くします。最初に咲いた花を着果させたままにする

キュウリ

支柱を立てて縦に誘引していく立ち作りでは、5節くらいまではわき芽(子づる)と雌花を早めに除去し、以降の子づるは1〜2節で摘心(茎の先端を摘み取る)していきます。

摘心したところから出る芽(孫づる)は、適宜数節で摘心していきませんが、必ず成長の良い長いつるを2〜3本残すようにして樹勢を保つようにします。

古い葉や病気の被害が大きい葉は、週1回程度摘葉します。ただし、一度に多く葉を取ると株への負担が大きいため、1回当たり2〜3枚にとどめましょう。

スイカ

親づるは、5〜6節で摘心し、勢いの良い子づるを3〜4本伸ばします。子づるの14節以上に、大玉種では1株で3果、小玉種では1株で10〜15果着果させます。

問い合わせ

農業振興課 農業振興係
0824・73・1131

庄原が好き

このコーナーでは、人と人とのつながりや暮らしのストーリーを、シリーズで紹介しています。まちを知り、地元の新なる魅力を発見することで、人を、まちを、もっと好きになりますように。



地域おこし協力隊として
高野町に移住した
佐々木 敦さん

を発信することだったので、自分にぴったりだと思いました。少しでも役に立てるのではないかと考え応募し、無事に採用が決まりました。
3月に高野町に移住して以来、大自然に囲まれた環境と、地域の皆さんの温かさに触れ、日々の生活を満喫することができています。

これからやってみたいこと

私は、高野町の食が本当に魅力的だと思っています。

当面は、ホームページやSNSなどで、その魅力を発信していきたいと思っています。私が高野町のファンになったように、高野を訪れてみたい、住んでみたいと思ってくれる人を増やすことが、現時点での目標です。

やりたいことはたくさんありますが、せつかく移住したので、自分で野菜や米を作れるようになりたいと思っています。そして、将来的には高野町の自然を体験できたり、食を堪能できたりする場所をつくりたいと思っています。

問い合わせ

自治定住課定住推進係
0824・73・1257

高野町のファンに

私は、海田町で生まれ育ちましたが、10年くらい前から漠然と、田舎に住んでみたいという夢を抱くようになりました。

そんなとき、高野町を知りました。きっかけは、知人が高野町に移住したことです。年に数回、友人を訪ねて遊びに来るうちに、人々や自然、食べ物に魅力を感じ、この町のファンになりました。
移住したいと考えるようになったころ、地域おこし協力隊員の募集があることを、地域の人から教えてもらいました。
仕事の内容は、高野町の魅力や情報